

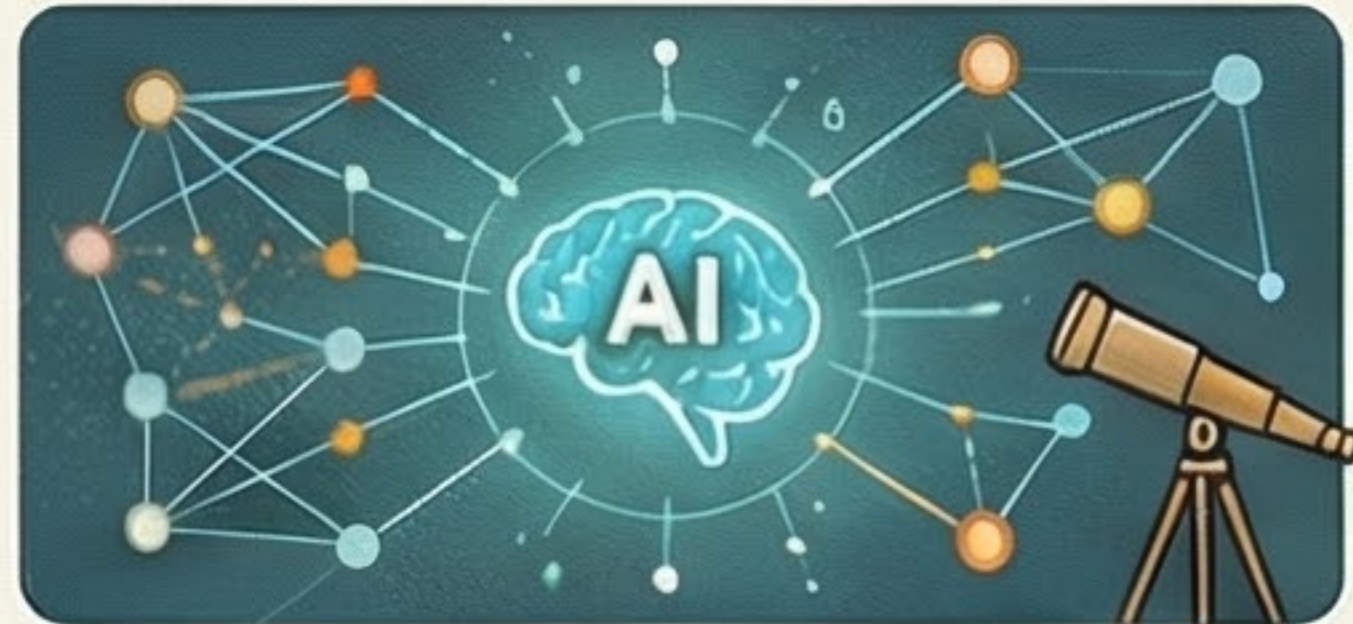
AI時代の知財業務：「作業」から「意思決定」へ

次世代AIの自律性と長期推論能力により、知財業務における情報分析や書説作成などの反復作業が劇的に効率化されています。
これにより、専門家の役割は作業の実行から、AIの出力を監督し最終判断を下す「意思決定」へとシフトしています。

光：AIがもたらす恩恵



革命的な効率化とコスト削減
ある企業ではAI活用で業務時間を50%短縮し、年間8000万円のコストを削減。



人間を超える分析精度と網羅性
AIが技術の空白地帯を発見し、見逃しがちな異分野の間連発許も接索可能に。



専門家はより高度で創造的な役割へ
単純作業から解放され、事業戦略に沿った特許計画の立案などに専念できる。



人材育成(OJT)の機会喪失
若手が実施を学ぶ下積み業務がAIに代替され、成長機会が失われる恐れ。



AIの「幻覚」と法的責任問題
存在しない判例を引用するなど誤情報を生成し、最終的な法的責任は人間が負う。



機密情報の漏洩・権利喪失リスク
出願前の発明内容をAIに入力すると、新規性を失う恐れがある。

影：AIがもたらすリスク